

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 15 日現在

機関番号：12606

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2013～2014

課題番号：25885029

研究課題名(和文) 社会的排除と表現の現在的諸相：「良心的支持者」の立場に着目して

研究課題名(英文) The Present Aspect Of Social Exclusion And The Arts : Looking At The Stance Of
Conscience Adherents

研究代表者

長津 結一郎 (NAGATSU, Yuichiro)

東京藝術大学・音楽学部・助手

研究者番号：00709751

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,400,000円

研究成果の概要(和文)：マイノリティ当事者と当事者ではない人のコラボレーションの現場では、「当事者」が「非当事者」に創造のきっかけを与えていた。一方、「非当事者」は「当事者」という概念を拡張させたり、「当事者/非当事者」という境界線を揺り動かす存在であることがわかった。また、「当事者」の側に立つ人々が、非当事者が提起する概念拡張について、積極的に受け入れた時、二者を隔てる境界線が融解することもわかった。芸術表現の現場で、当事者と非当事者がコラボレーションすることで、従来の「当事者」概念では見出すことのできない新しい「当事者」概念が見られることが明らかになった。

研究成果の概要(英文)：This Research is focused on a creation site where minority members, such as handicapped people and sexual minorities, and non-minority members collaborate. In the site of collaboration between minority parties and non-parties, interested parties gave non-parties motives for creation. On the other hand, this research found out that non-parties expanded the concept "interested parties" and blurred the boundary between interested parties and non-parties. Also, when people who stand on the side of interested parties actively accept the expansion of the concept suggested by non-parties, the boundary between the two groups would fade away. It became clear that through the collaboration between interested parties and non-parties, a new concept of "interested parties" that is not seen in the existing concept of "interested parties" can be found in a site of artistic expression.

研究分野：社会福祉学

キーワード：障害 クィア 当事者 アール・ブリュット 芸術表現

1. 研究開始当初の背景

今日の芸術環境を見渡すと、観客は単なる観賞者ではない。「芸術の提供者と享受者」という一方的な関係性だけではない、様々な形式の芸術活動が生み出され続けている。こうした中で、表現活動を通じて連帯してゆく対象として、社会的マイノリティの人々と関わりながら行われる芸術活動も近年隆盛している。既往研究の中では、社会的に排除されている人々に寄り添うケアとしての分析や、マイノリティの人々が関わることでどのように芸術的インパクトを与える作品が生成されていくかについて論じられることが大半である。

しかし申請者のこれまでの研究の中では、こうした表現の現場において重要な位置を占めるのが、社会的マイノリティ当事者だけでなく、このような表現活動に「介在」し支援する存在、すなわち社会運動論で言うところの「良心的支持者」の立場であることを指摘してきた。障害者を「見い出す存在」としての介在者や、当事者ではないが関わりを求めて参画する人々は、当事者たちの表現を既存の社会で応用可能なものとするべく「枠組み」を提供する機能を持つなど、ときに当事者それ自体よりも大きな役割を持つことがある。本申請ではこの点に着目した研究を行ってゆくことで、当事者/非当事者と括られがちな人々の多様性に焦点を当ててゆく必要がある。

2. 研究の目的

本研究では、「当事者/非当事者」という二者択一の枠組みでは括りきれない多様な立場にある人々の関わりが、社会から排除されている人たちの表現活動にどのような影響を及ぼしているのか分析した。申請者のこ

れまでの研究では、社会的に排除されている人々が関与する表現活動の現場において重要な位置を占めるのが、表現活動に「介在」し支援する「良心的支持者」の立場であることを指摘している。そこで、障害者が参画する芸術活動や性的マイノリティの人々が参画する文化活動について参与観察やインタビュー調査を実施することで、「良心的支持者」の立ち位置にあるとされる人々の活動における役割を注視した。

3. 研究の方法

本研究の目的達成のためには、実践と歴史的背景についての先行研究の整理や先行事例の掘り起こしから始め、フィールドワークや参与観察を通じた一次資料の収集と分析が必要であった。障害者と性的マイノリティについて、それぞれ2つのフィールドを設定し、参与観察やインタビュー調査、文献や作品の分析等を試みた。

4. 研究成果

(1) 「当事者/非当事者」を巡る境界

当該分野においては近年、セクシュアル・マイノリティを「LGBT」、そこに関わる非当事者を「アライ」という呼称を扱うことで社会の中で可視化されつつある。しかしそのカテゴライズを厳密に紐解くと「レズビアン・ゲイ・バイセクシュアル・トランスジェンダー」の総称である「LGBT」という用語は、より幅広いセクシュアル・マイノリティの生の在り様を切り捨てているとも言える。一方「アライ」概念は、可視化への戸惑いからセクシュアル・マイノリティ当事者が隠れ蓑的に活用することもあるため、誰が「当事者/

非当事者」か、という問いに一樣に回答することは困難である。

またもうひとつは、表現活動としての専門性という観点からの「当事者」性、が大きく活動のモチベーションに影響を与えている。セクシュアル・マイノリティ非当事者の人々でも、何らかの表現活動への強い興味・関心が見られる場合にモチベーションは高い場合が多いが、セクシュアル・マイノリティを巡る社会的構造への関心は比較的低い。一方、セクシュアル・マイノリティ非当事者の中で、表現活動への専門性も高くない人々の場合は、自らの「生きづらさ」をセクシュアル・マイノリティに投影させて活動している様子が見受けられた。

非当事者としてではなく、何らかの要因による当事者性を備えた形で活動の推進力となる。それこそが「良心的支持者」の姿であると推察される。そのように考えると、「当事者」である側面と「非当事者」である側面が同じ人物の中で共存していることが明らかになった。

(2) 関係性における「非当事者」の性格

ではそういった中で、障害者と芸術家がコラボレーションする事例のように、マイノリティ性を持つ「当事者」とそうではない「非当事者」とが協働する現場では、それぞれの持つ性格はどのような様相を見せているのだろうか。本研究を通じて、大きく3つの事が明らかになった。

1 つめは、関係性のなかで当事者のもつ性格についてである。当事者とされる人々は、周囲の人々に対して、新たな創造的な行為を行う契機を与えていたり、今まで取り組んで来なかった出来事に取り組むための存在となっていることが明らかになった。その中には、日々の生活を新たな視点で捉え、時にはマイノリティが持つ独自の文化について違

和感を持たせるような役割を果たしている。

2 つめは、関係性のなかで非当事者のもつ性格についてである。非当事者とされる人々は、マイノリティ当事者の人々が普段行っていることや、持っている文化に対して、別の観点から見ることで新しい価値付けを行っている。そのことで、マイノリティである「当事者」という概念を拡張していくという傾向が見られた。

3 つめは、それらの相互関係についてである。創造の現場では、「当事者」が「非当事者」に創造的な契機を与える一方で、「非当事者」は「当事者」という概念を拡張させたり、境界線を揺り動かそうとしているという関係性であるということがわかった。その中で、「当事者」の側に立つ人々もその概念の拡張を積極的に受け入れる場合に、二者を隔てる境界線が融解し、従来の「当事者」概念では見出すことのできない新しい様相が見られることが明らかになった。

5 . 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[学会発表] (計 2 件)

長津結一郎 「障害者の芸術表現活動」を問い直す - 近年の事例を中心として、日本アートマネジメント学会、2014年11月30日、実践女子大学 (東京都日野市)

長津結一郎 「社会福祉と芸術表現、その交差と「共犯」 - 表現とそのプロセスを追う」、日本社会福祉学会関東部会、2014年3月15日、日本社会事業大学 (東京都清瀬市)

[その他]

アウトリーチ活動

長津結一郎 (登壇) 藤めぐみ (登壇) 「家族のカタチを考える ~ 同性カップルと里親

制度』、フェスティバル/トーキョー、2014年
11月14日、東京芸術劇場（東京都豊島区）

6. 研究組織

(1) 研究代表者

長津 結一郎 (NAGATSU, Yuichiro)

東京芸術大学・音楽学部・助手

研究者番号：00709751